

～防災知っ手帖～

発行：郷地・東町連合自治会 会長 志村和亮
防災部 鈴木祥平、初谷 晃

いませんか！！

危険が迫っているのに「ウチは大丈夫」な人！

近年「50年に一度の・・・」とか、特に最近では「これまで経験したことが無いような・・・」などと言う修飾語のついた大雨や台風が発生するようになりました。これまで起こったことが無いような異常気象が今後は発生する可能性が著しく高くなっています。

防災知っ手帖の第6号では第5号に続いて風水害についての情報を提供します。我が家の危険度を最新のデータで素直に理解し、具体的に対策を立てて、実行して下さい。その出発点はハザードマップです。

多摩川だけでなく残堀川の氾濫にも留意して下さい（最新版では浸水想定区域が拡大しています）。

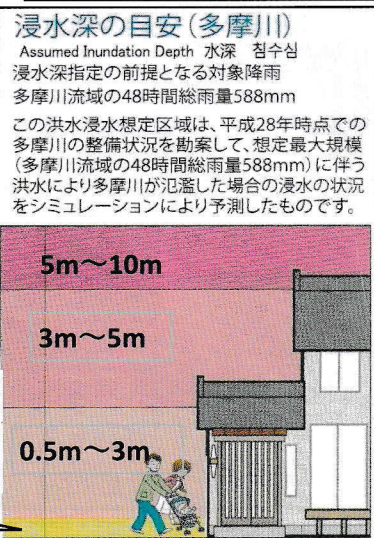
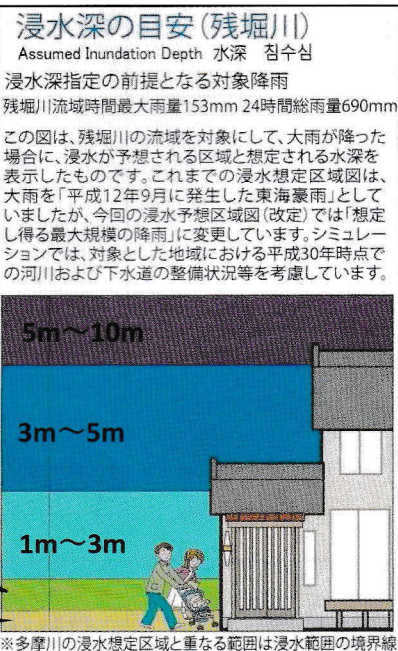
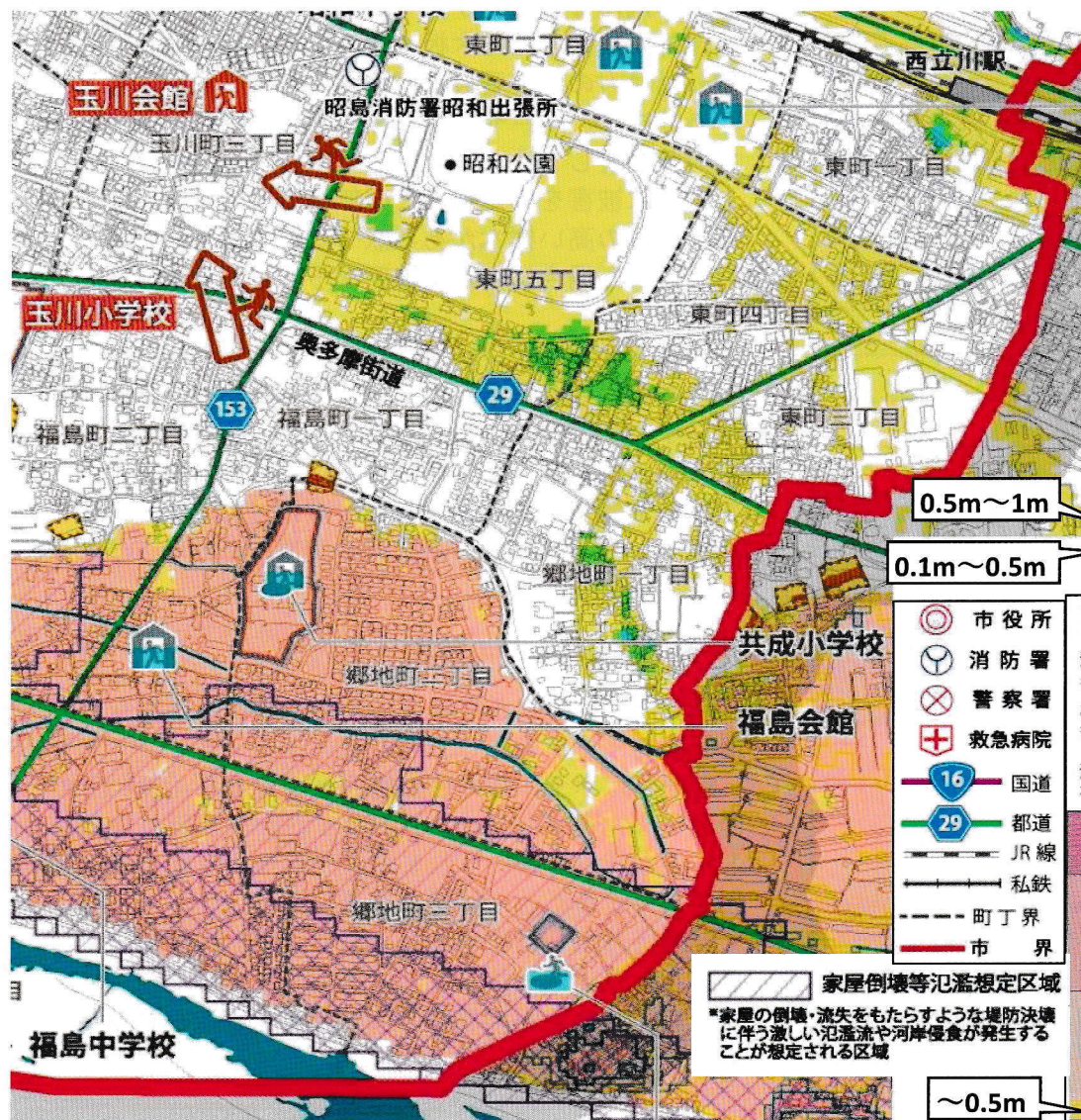
ハザードマップを今一度確認しましょう

2020年6月末に昭島市から市内全戸にハザードマップの改訂版が配布されました。自宅付近の危険がどの程度か確認されたでしょうか。

郷地・東町連合自治会の範囲では多摩川が氾濫した場合の浸水想定区域と残堀川が氾濫した場合の浸水予想区域の二つの危険が予想されています。更に多摩川浸水想定区域の奥多摩バイパスと多摩川に挟まれた区域（一部バイパス北側も含まれる）は家屋倒壊等氾濫想定区域とされ、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流が発生する可能性が高いとされています。

テレビ等では被災された方々の多くが「まさかこの付近が・・・とは思っていなかった」と言っています。まずは自宅付近のハザードマップを確認して下さい。

昭島市ハザードマップ（郷地・東町付近）2020年6月発行版



警戒レベルと避難行動

警戒レベルは1から5まであり、それらのどの段階でどのような行動をすべきかはハザードマップに記載されていますが、特に重要な警戒レベル3と4については防災知っ手帖の第5号にも掲載されています。これら警戒レベルの意味をよく認識して行動することが大切ですが、自宅からの避難はいつでも思ったときにできるわけではないことも認識しておいて下さい。

まさに台風が近くに来ているときには風雨が強くて避難ができない状況も考えられますし、道路が冠水している状況では足元の確認ができず危険です。また暗くなってからの避難にも危険があります。

従って避難レベルに達していなくても、早めに避難行動に移るかどうか検討する必要があります。その為にも日頃からいざというときの情報入手方法を複数確保しておきましょう。

非常持ち出し品の一例（各家庭で考えましょう）

避難に必要なもの	雨具（傘ではなくカッパ）
	LEDライト
	軍手
	笛または防犯ブザー
情報収集の為に	携帯、スマホ
	モバイルバッテリー
	乾電池
	ラジオ
	ペンとメモ帳
当座の飲食	ペットボトルの水
	乾パン（氷砂糖）
	チョコレートなど
あると便利	着替え、タオル
	ポリ袋
証明書類	保険証（またはコピー）
	免許証（またはコピー）
傷の手当て	救急用品
お金	硬貨（公衆電話、自販機）
	1万円札、千円札
感染防止	マスク、携帯消毒液
	体温計
	室内履き、外履き入れ袋
各家庭の事情で必要な物	メガネ、補聴器など
	持病の薬、お薬手帳（コピー）
	乳幼児用品
	高齢者用品
	女性用品

風による被害を想定した対策も忘れずに

2019年の台風15号では千葉県の大半の地域で停電が発生、2020年の台風10号では九州で停電となりました。近年の台風は日本近海の海水温度が高い為、本土に接近しても勢力が衰えず、暴風が被害を拡大させています。台風10号では事前の予測で最大瞬間風速75m/sが予測されていました。現実には50m/sでしたが、今後ないとは言えません。

風の強さと吹き方 			
風の強さ	平均風速 (m/s)	およその瞬間風速 (m/s)	風の吹き方の状況・イメージ
猛烈な風	40以上	60	屋外での行動は極めて危険。 走行中のトラックが横転。
	35以上40未満		多くの樹木が倒れる。
	30以上35未満	50	電柱や街灯、ブロック塀で倒壊するものがある。 住家の壁が広範囲に飛散し、住家自体が倒壊するものがある。
非常に強い風	25以上30未満	40	何かにつかまっていないと立ってられない。
	20以上25未満		屋根瓦や看板が落下・飛散。

◇風で飛んできた物が自宅を直撃

屋外に放置された木板、家の屋根や庇（ひさし）、取り付け方の悪い看板等が強風で自宅を直撃する恐れがあります。雨戸やシャッターが無い窓は危険ですので対策しましょう。また自宅のものが風で飛ばされ、ご近所に被害を与えることの無いよう対策も必要です。

庭に背の高い樹木がある家では風に耐えられるか、もし倒れた場合にどんな被害が予想されるか検討しましょう。

◇停電

風で飛ばされたもので電線が切られたり、最大風速40m/sを超えると電柱が倒れる恐れもあります。

照明が使えないときの代替手段だけではなく、携帯電話の充電手段や調理コンロが電化されている住宅でのカセットコンロなど各家庭の実情に合わせて予め検討しておきましょう。

◇非常持ち出し品の補足

避難所に避難する際は自分たち家族が必要なものは最低限持っていきましょう。

避難所はホテル等の宿泊施設とは異なり、食料その他必要な物資がなかったりプライバシーが守れないなど不便な状況を強いられます。一人ひとりができる範囲で対策することで状況を改善しましょう。

非常持ち出し品を予めリストアップし、準備しておきましょう。さらにこれまで周知されていた物品に加えて新型コロナ等の感染対策を考慮することも必要です。